

サビエル生誕五百年



巡礼の道

74

藤屋 侃士  
(下松市幸ヶ丘)

フロイスを演じた神父

まだ一、三回しか会  
つてないのに、何年来  
じを受ける。不思議に



「黄金の日々」でモニカ（夏目雅子）に  
洗礼を授けるフロイス（カンガス神父）

ウマが合い、魅力あふれる人。この春、山口教会に赴任して来られたカンガス神父はそんな人である。

北スペイン出身で、今年八十一歳。三十年以上、東京のイグナチオ教会で活躍された。こんな紹介よりも、

ちよつと古くなるがNHK大河ドラマ「黄金の日々」でフロイス役で出演された神父と言えば「ああ、あの神父」と思い出してもらえるかもしれない。

「黄金の日々」は信長、秀吉の戦国時代を背景に、ルソン貿易に命をかけた男の物語だ。

神父ながら「日本史」を書いたことで有名なルイス・フロイス神父も登場した。そのフロイス役を演じたの



カンガス神父

が、カンガス神父だったのだ。

番組チーフ・プロデューサーの近藤氏は、フロイスは俳優ではなく本物の司祭に演じてもらおうと考えた。近藤氏の奥様がイグナチオ教会の信者だったことから、カンガス神父に白羽の矢が立った。

ところがカンガス神父は何度説得しても頑として応じない。ある日「神父のセリフはこれです」と台本を見せて説得した。

織田信長「いかなる動機から、かくも遠隔の国より、この地に渡ってきたのか、それを聴きたい」

フロイス神父「進んでこの地に赴きましたのは、この地の人々に救いの道を教え、世界の創り主であり、人類の救い主なる神の御心にかないたいという望みのほかには何の考えもなく、何らの利益を求めません。我がが

進んで苦難を選び、長い航海にもいかなる危険にも身をゆだねるのは、それが神の御心にかなうことであると信じるからであります」

カンガス神父はセリフが自分が目指す生き方そのものだったので出演を引き受けたという。

台本を見せてもらったが、市川染五郎、栗原小巻、緒方拳、宇野重吉、夏目雅子など豪華メンバーとの共演。レンタル・ビデオショップに総集編があるそうなので、時間ができたらカンガス神父の名優ぶりを見たいと思っ

ている。役者はともかくとして、カンボジアで地雷でケガをした子どもやアフリカ、フィリピンなどの貧しい子どもたちのために今も現地に活動する前向



黄金の日々

第四回 北上前夜

NHK TV 放送50年

「黄金の日々」の台本

きの生き方に八十一歳には見えない若さの秘けつがあるのだろう。来日されてちょうどう五十年。「私の国スペインとフランス、イタリアに皆さんと一緒に巡礼に行きます。ぜひ一緒に行きましょう」と誘われ、「はい」と返事をしました。

そんなわけで今月末から予定外の旅に出ることになった。「出会いを大切にし、それを発展させる」この巡礼記をもう少し充実したものにさせようという神の計らいと思うからである。

（元山口放送取締役ラジオ局長）